

(別紙)

## 令和元年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名：宮城県産針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用

事業実施期間：平成30年度～令和2年度

担当課室名：農業振興課（農業・園芸総合研究所）

担当班名：普及支援班（野菜部イチゴチーム）

TEL:022-211-2837(022-383-8135)

e-mail:nosins@pref.miyagi.lg.jp

### 1 事業の目的

ヤシガラに代わり針葉樹皮をイチゴ養液栽培用培地として利用する方法を検討し、林業及び木材・木製品製造業から排出される針葉樹皮の農業での利用推進の可能性を検討するもの。

### 2 当該年度の実施事業の概要・実績

試験課題名：宮城県針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用

- 1) イチゴ親株用培地としての利用について検討
- 2) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）への利用の検討と既存のヤシガラ培地との比較
- 3) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）利用した場合の経年利用について検討

### 3 当該年度の実施事業の成果

- 1) イチゴ親株用培地としての利用について検討
  - ・杉皮樹皮発酵パウダー（商品名：イデアルグリーン）及び杉皮樹皮ファイバー（商品名：イデアルファイバー）はヤシガラ及び培土と比較して、親株から発生するランナー数と子苗数に差はみられず、イチゴの苗増殖用培地として問題はみられなかった。このため、親株用培地としての利用の可能性が示唆された。
- 2) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）への利用の検討と既存のヤシガラ培地との比較
  - ・イデアルグリーン及びイデアルファイバーはヤシガラ培地と比較して同等の生育及び収量が得られた。
  - ・イチゴの培地は通常継続して利用し、不足分を補充する形で利用される。このため、ヤシガラ培地の不足分にイデアルグリーンを追加した試験を行ったところ、ヤシガラのみの培地と比較して同等の生育と収量が得られたため、ヤシガラの不足分への補充用培地としての利用が示唆された。
- 3) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）利用した場合の経年利用について検討
  - ・イチゴの培地は通常継続して利用されることから、針葉樹皮を用いた場合も同様に経年利用可能か検討する必要がある。今回、1作目のイデアルグリーンと2作目及び4作目のイデアルグリーンを比較したところ、生育及び収量は同等からそれ以上となったため、4作利用可能であることが示唆された。
  - ・イデアルファイバーにおいては、2作目と4作目の培地を比較したところ、生育及び収量は同等であったことから、イデアルファイバーについても、4作は利用可能であることが示唆された。

された。

#### 4 今後の展開

イチゴ親株培地への利用については、2か年の試験より、利用可能であることが明らかとなったため、現地実証試験を行い大規模での利用について検討する。

イチゴ本ぼへの利用についても、2か年の試験により利用の可能性が見出されたため、最終年度も引き続きヤシガラ培地の代替培地として経年利用できるか試験を継続して行う。また、ヤシガラへの補充用の培地としての利用について再度検討し、現地への普及を目指し、宮城県産針葉樹皮のリサイクル率を高める。

#### 5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：イチゴ高設栽培用培地入れ替え面積)

単位：a

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
0	0	2		

#### 6 事業費の推移

単位：千円

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	平成 年度	平成 年度
4, 546	4, 338			